



千羽鶴から私のドーム

広島や沖縄に寄せられた千羽鶴を再生した紙で、原爆ドームの模型を作る企画が12日、広島市中区の旧日本銀行広島支店であった写真。14日までのイベント「せこへい美術館」（入場無料）の一環で、高校生ら11人が参加した。

再生紙のドーム模型は、NPO法人・千羽鶴未来プロジェクトがこの夏考案。生徒らは代表理事のイングリックまゆみさん(62)＝広

高校生ら再生紙で

島市東区＝の指導で紙を折り、20分ほどで高さ10センチの模型を完成させた。

安田女子高1年の上野結花さん(16)は「紙が軟らかくて難しかったが、ドームになってびっくり」。崇徳高3年の山本裕介さん(17)は「折り鶴が再生され、身近で使えるものになっていくのはうれしい」と話した。イングリックさんは「ただ折るだけで平和は来ない。若者が考え、一歩踏み出すきっかけになれば」と期待を込めた。(加戸靖史)